

清貧大統領ペペ・ムヒカ

ウルグアイのホセ・ムヒカ大統領は、1972年に敗北したツパマロス民族解放運動(MLN)の指導者でしたが、1985年に釈放後政治活動に転じ、2010年左翼の拡大戦線のタバレ・バスケス大統領の後継者として大統領に選出されました。その誠実な政治態度と質朴な生活ぶりから、国民から「ペペ」と呼ばれ、慕われています。

今回の第2回中南米カリブ海諸国(CELAC)首脳会議でも、ムヒカ大統領は、トレードマークとなったワイシャツ姿で出席し、「みんな、ネクタイをつけて扮装していますが、これは、西側の市場文化のコピーですね。われわれは統合しなければなりません、それは豊かさを高め、消費を増やすことではなく、人類の幸福のために戦うことです」と批判しました。最近ムヒカ大統領の清貧な生活態度が国際的にも注目を呼び、いろいろな国際メディアで紹介されていますが、その端緒となった、AFPのインタビューの一部を以下に紹介します。



私は貧しくはなく、安らかに生活するためには少ししか必要ではないのです。

El País, AFP、2012年9月7日付より

松木真理訳

ウルグアイのホセ・ムヒカ大統領（1935年生まれ）は、世界で最も貧しい最高指導者と言われていますが、「私は貧しくはありません、つつましく、モノを欲しがらずに生活しているのです」と述べ、社会の消費主義を問題とし、麻薬や妊娠中絶のようなテーマにある偽善性を批判しました。

「私は、貧しい大統領ではありません」と、ムヒカ大統領は、AFPの国際部記者に語りました。AFPは、大統領は、ゆっくりと、易しい言葉で、少しも形式ばらずに話す人物と述べています。

「モノを少ししか持っていない人が貧しいというわけではありません。沢山ほしがる人が貧しいのです。私は、つつましく、モノを欲しがらずに生活しているのです。生活するためには、少ししか必要ではないのです」。

彼は、こうした考え方は、1971年から、独裁制（1973-1985）の時期を含めて、14年間獄中にいたときに身に着いたと述べています。「夜、ベッドに横たわったとき、満足感を覚えました。そうして生き延びることができたのです。多くのつまらないことを問題としていることに気が付きました。



自由であることは、やりたいことに、人生の大半の時を使うことです。しかし、そのためには、時間がないといけません。」と指摘します。

彼の資産は、一つの農園、2台の車、3台のトラクターで、今年度の自己申告によると総額20万100₪（約2100万円）に上ります。そして、自分の賃金、月額1万2,400₪（約120万円）のほとんど90%を社会支援のために寄付し、国際通信社を援助しています。

「これ以上は必要としません。というのは、今もっているもので十分だからです。私がこの世からいなくなるとき、もし学校をひとつ残すことができるなら、私が残す遺産となるでしょう。しかし、これは、自分の生活のことだけに夢中にならないように、人に伝えたいという政治的行為なのです」と説明し、「人間は生きるために働かなければなりません、働くために生きるのではないのです」と付け加えました。

「これは、大変簡単なことで、革命的であるように思われますが、まったく革命的ではないのです。頭がおかしい人々は、つまらないことで一杯の困難な生活を必要とし、彼らに奉仕する大勢の人を必要とすると考えているのです。無駄なことで、まったく狂った考え方です。そうしたことは、封建主義の考えと同じことです」と述べました。

（以下略）